

〔徒然草上〕淨土寺前關白殿師○教○藤原は、おさなくて安嘉門院○親王の、よくをしへ參らせさせ給ひける故に、御詞などのよきぞと、人の仰られるとかや。

〔倭訓釋久編六〕くちをたゞく。萬葉集に打口をよめり、鹽鐵論に鼓<sup>タマ</sup>口と見えたり、

〔古今見聞集〕講釋師馬場文耕は、文學もありて、殊に能辯なれば、戰などの講釋は、面白くて皆喜びて聞居る内に、何か一くさりづゝにくまれ口をたゞき、

〔後撰和歌集十六〕ある所にみやづかへし侍ける女の、あだなたちけるが、もとより、をのれがうへは、そこになんくちはにかけて、いはるなど、うらみ侍りければ、よみ人しらずあはれてふことこそつねのくちはにかゝるや人をおもふなるらん